

## 第20回 長野市中心市街地活性化基本計画評価専門委員会 議事録

日時：平成29年8月17日（木）

午後1時30分～午後3時25分

場所：もんぜんぷら座3F 304会議室

### ・出席委員：7名

竜野泰一委員、金澤玲子委員、越原照夫委員、渡辺晃司委員、石川利江委員、柳瀬亮太委員、樋口敦子委員

### ・欠席委員：0名

- 1 開会
- 2 都市整備部長あいさつ
- 3 評価専門委員会委員長あいさつ
- 4 事務局職員自己紹介
- 5 諮問（「もんぜんぷら座の在り方」の検討について）
- 6 議事

#### (1) もんぜんぷら座在り方検討部会の設置について

##### <資料1>（説明者：事務局）

**委員長** （部会を設置することについての採決 ⇒ 全員賛成）

**事務局** 事前に委員長と話し合った構成案では、学識経験者に委員2名を含む6名、地域住民代表3名、民間諸団体代表4名、一般公募4名、もんぜんぷら座テナント代表4名、合計21名で考えている。構成について了承いただけたら、その上でそれぞれの委員に就任してもらう予定。

今後は早急に部会を立ち上げ、年度内には一定の方向付けができるよう4回から6回程度検討を重ねて、当委員会に報告をさせてもらう。並行して公共施設適正化委員会、庁内組織の公共施設マネジメント推進検討会議もんぜんぷら座専門部会、また中心市街地活性化協議会や市議会等とも連携していきたいと考えている。

**委員** 一般公募の中に女性はいなかったのか。

**事務局** 2名いたが、小論文で合計点の高い4名を選んだ結果、選から漏れたということ。

**委員** 私も女性が少ないと思う。ちなみに公募委員の職歴などを教えてもらえるか。

**事務局** 公募はあくまでも小論文で判断している。それぞれが他の会議や組織の委員として活動しているかもしれないが、敢えて公にはしていない。

応募のあった小論文のほとんどが、もんぜんぷら座の現状をきちんと把握して、今後の提案まで入ったものになっていて、選考委員会でもそこを重視して採点した。その結果、応募された女性の点数が若干低かったということ。

当初から女性の割合は考慮しているが、組織や職種で人選をすると、男女比が偏ってしまうのは仕方がない。そのため、学識経験者の中に女性ということで入ってもらっている方もいて、女性ネットワークにも入ってもらっているのもので、ご理解いただきたい。

**委員** もんぜんぷら座を利用するのは女性の方が多いと思うが。

**委員** もんぜんぷら座を利用している団体の中に女性が代表しているものもあると思うので、そういう方に部会に入ってもらおうという方法もあるのではないかと。

**事務局** 確かにそのようなやり方もあるが、そもそも部会の意見だけで決めようとは思っていない。市民アンケートも行うし、女性や利用者の意見も集めていこうと思っている。

**委員** じゃん・けん・ぼんを使っている母親に部会に参加してもらうことはできないか。

**事務局** じゃん・けん・ぼんの管轄は市の保育・幼稚園課になるので、担当課を通して意見を吸い上げるし、利用者についてもアンケートのような形で意見を吸い上げようと考えている。もんぜんぶら座でも一番利用が多い所なので、ビル管理とは違う管轄者の面からも意見を頂戴したいと思っている。

**委員** 検討部会の設置に当たり利用者からの意見を聴く会も過去にあったが、在り方をどうするかという他に、残す場合は今不便な点を聴いて造り直さないといけないと思う。

**委員** じゃん・けん・ぼんの利用者が一番多く、お母さん方はとまと食品館で買物をしていくことも多いので、構成員に一人もいないのが不思議。でも、部会とは別に意見を把握するということがいいか。

**事務局** 様々な方法で意見を取り入れ、部会に上げて検討していく形になる。

**委員長** (部会の構成についての採決 ⇒ 全員賛成)

## (2) 長野市中心市街地活性化プランについて

### <資料2> (説明者：事務局)

**委員** 11ページで「住みたくなるまち」の指標を達成しなかった理由として、総人口の減少が食い止められたので相対的に中心市街地の人口割合が目標値に満たなかった、とあるが、総人口はここ10年間減少し続けている。減少割合が一番高かったのは平成21～22年で0.74%、二番目に高かったのが平成27～28年で0.37%で、某電気系工場が千人単位で来た平成26～27年だけが、0.1%の減少で食い止められている。去年の人口減少割合が過去二番目に大きかったことを考えると、理由が当てはまらないのではないか。

また、次のドーナツ化について述べているところで「郊外型大規模小売店舗」とあるが、「中心市街地近隣」くらいの書き方でいいのではないか。水沢上庭の方にも大型店ができてはいるが、中心市街地への影響は限定的だと思う。また、購買行動もまとめ買いへの変化ではないと思う。スーパーは毎日行く所で、一週間分まとめて買う人はいない。

更に、12ページに「ハード事業が概ね完了に至り」とあるが、ほとんどが市の事業で民間は投資していないので、「市の」と付け足した方がいいのではないか。

**委員** 大規模小売店舗のところでは「出店」と言い切らないで、かと言って影響があるにはあるので、「大規模小売店舗の影響で」くらいにした方がいいのではないか。

**事務局** 言われるとおりで、市内の様々な取り組みで総人口の減少が穏やかだった、という記載は改めて見直しをさせていただきたい。9月にパブリックコメントを行おうと思っているので、計画案として提示する前に、どのような表記にするかを改めて相談したい。

郊外型大規模小売店舗については、専門店や大型店などとして「中心市街地近隣の自動車利用を前提とした郊外型大型店により、消費者の購買行動が変化した」というような文に修正させてもらいたい。

また、ハード事業がほとんど市の事業であるということについては、JR長野駅の駅舎改修工事なども影響しているということで、「公共のハード事業が概ね完了に至り」とさせてもらいたい。

**委員** 書店跡にディスカウントショップが入って長野駅前には店の形態は揃うが、周りは居酒屋

屋ばかりで回遊性が無いので、何か一言欲しい。

また、長野びんずるの表紙は変えてもらいたい。活性化プランを表すには暗すぎるのではないかと思う。

**委員** 好みなのできりが無いが、夜の写真というのは気になる。

**事務局** 今は肖像権が厳しくなっている。たまたま映り込んだ人がどこの誰で、どうやって許可を取るか考えると難しいので、人物を特定できない写真がいいのではと思った。

**事務局** 関係部局が所有している著作権の問題の無い写真を使うことも可能ではあるが、善光寺花回廊などは前計画の表紙に使われているので、今回は敢えて変えようとした経緯がある。第一期計画は白書的な表紙で、第二期から写真を入れ始めた。夜景というより、暗い色が印象としてよろしくないのかと思う。もう少し明るい印象で、人が特定されないように調整させてもらいたい。

**委員** この表紙はどれくらいの期間使う予定なのか。

**事務局** 計画期間は4年6か月を予定している。

**委員** 中心市街地の活性化と長野びんずるを結びつけすぎるのはどうなのか。1年に1日だけのイベントを、4年半使うとなると…。果たして長野市がびんずるを中心市街地活性化の核としているのかということ。

**事務局** 第二期計画の冊子は計画の中身に即した表紙になっていた。今回は、これから始まる事業がまだ形としてできてこない。今までの計画とは違うという意味も含めて、もう少し時間をかけていきたい。

**委員** もう少し品というか、格式の高いイメージのものにしてもらいたい。

**事務局** 確かに第二期のように表紙が計画の中身を表しているという意味合いが若干薄いので、今後検討して、なるべく明るい色合いで、なおかつ計画の中身を示すようなものに改めたいと思う。

**委員** 例えば第二期計画の表紙のようにびんずるを含めた4カットを散らしてもいいし、逆に全部を街なみのデザイン画にしてすっきりさせるのもいい。この表紙だと「びんずるのまち」みたいなイメージが持たれてしまうと思う。

**委員** 活性化にも色々な側面があると思うので、活性化するとはどうなることを具体的に示していかないと全ては捉えきれない。例えばこのびんずるの写真を示して賑わいの有り無しを聞くだけでも、写真の明暗だったり、個人が思う賑わいの期待値によっても答えが大きく変わってくる。そういうところまで考えて、表紙を選んでもらいたい。

**委員** 人口の推移について、県では南箕輪村や軽井沢町が増えていて、その次に増えているのが松本市。長野市・須坂市・千曲市はワースト3。長野市は38万人という人口規模があるのだから、増えていかないとおかしいのに減っている。市の様々な部局が人口増に向けて頑張っているが、商業の賑いも無いし、育児政策が整っていると言われるとそうでもないし、その状態のまま人口が減少しているというのは非常にまずい。

**委員** 松本市は市外から入ってくる人口が多く、「住みたくなるまち」の部分でプラスになっている。

**委員** 松本市は女性誌で毎年最低3誌は特集が組まれている。長野市は松代の売り込みに力を入れていた時期こそ雑誌掲載もあったが、その後に特集した女性誌は無いと思う。

**委員** 富山市みたいに住んだら補助金が出るとか、住宅に補助金が出るとか、中心市街地だ

けではなく、長野市全体で考えてもらいたい。

**委員長** (答申案についての採決 ⇒ 全員賛成)

### (3) 権堂地区再生計画について

#### <資料3> (説明者：事務局)

**委員** 8ページに「集積による魅力」とあるが、何を集積しているのか。

**事務局** 業種の混在が魅力であると言う人も、ある種のお店が目立つ場所にあるのはどうかと言う人もいる。市民アンケートでは、ある程度の区分けは必要である、という回答が一番多かった。それを踏まえて、緩やかに業種をまとめていく、飲食店がまとまっていたり、高校生などが大人エリアを歩かなくていいようにするなど、色々な意味合いを含めて集積という言葉を使っている。但し、飲み屋街としては、連なっている方が魅力がある。違うジャンルにおいても同じことが言えるが、現地の状況を見ると、ここは飲み屋さんの集積の意味である。

**委員** 7ページに「常に二面性が魅力であるようにする仕組みをつくっていく」とあるが、二面性とあるからには、二つの単語がないといけない。

**事務局** 「権堂らしさ」という言葉の考え方が参加者によって違うので、平成24年当初の計画で創り上げた定義をそのまま踏んでいる。4ページにあるが、『「昼と夜の役割や表情の違い」「市民と観光客の混在」「歴史的資産と今日の営み」「過去と現在」「表通りと裏通りの表情」「商売と暮らし」といった相反する二面性が一つの街に共存・混在する状況が、今の「権堂らしさ」と捉えていきます』ということで、様々な「相反する」があるので、何か一つだけ書くわけにもいかない。

**委員** そうだとしても7ページだけで見た場合、分かりづらいので、「多面的な」とかに変えたり少し補足が欲しい。

**委員** 多面性に変えてしまえばいいのでは。いろいろな要素が集まれば多面性になる。

**委員** 多面性に変えるならいいが、二面性を使うなら補足が欲しいので、どちらかでお願いしたい。

**委員** まちっぽい言葉で「雑多」でもいい。

**事務局** この文章で考えたのは「権堂らしさ」という言葉を二度使うのを避けたかったということ。「権堂らしさ」が定義してあるにもかかわらず違う意味で使われるということが何度も起こった。そのような背景から「権堂らしさ」を置き換えた言葉が「二面性」で、確かにこの部分だけ見れば少し分かりづらいとは思いますが、「多面的な相反する要素が常に魅力である」などといった表現をとらせてもらえればと思う。

**委員** その前の部分も逆説がいろいろ入って難しい。

**委員** 70代が見る権堂と、50代、30代が見る権堂とは全く違う。権堂らしさとひとくくりにしようとするからうまくいかないのではないかと思う。

**委員** 「ちぐはぐな混在」が良くないことだとすれば、この文章で権堂らしさを打ち消す要素になっているので、先程と言っていることが矛盾しているように聞こえる。

**事務局** 7ページの「らしさを磨く」については、混在はただ混じっているだけ、共存は共にあってそれらが成り立っている状態と考えるので、副題で「混在が共存となる仕組みによるまち並みの形成」としている。街なみは続いた方がいいのに、駐車場とお店が点在して歯抜けのような状態になっている現状を踏まえて、所有者もまちもメリットを享受

しつつ、負担も負いつつ、統率の取れた共存になってはいかないかという表現で書いたつもり。

**委員** 副題に「混在が共存となる仕組みによるまち並みの形成」とあるのだから、3番の文章が一番上に来れば分かりやすいのではないか。その上で「権堂らしさを打ち消す要素を防ぎ」という否定の文章をなくしてしまった方が分かりやすいと思う。

**委員** 混在という言葉を取ってしまえば分かりやすい。混在というのは元々の権堂の良さなので、ここに入れてしまうと否定的な意見になってしまうと思う。

**事務局** 確かに3番の文章を前に持ってきた方が分かりやすいと思う。

また、1番は不動産の所有者が積極的にまちづくりに取り組むということで、混在も魅力であるので伸ばしていきましょうという程度にして、権堂の魅力はそういうところなんだと言った方が分かりやすいと思う。

順番を含め、この部分は修正させていただく。

**委員** タイトルの「磨く」を「はぐくむ」とか「育てる」などに変えてもらえないか。「磨く」だと削っていくような印象を受けてしまう。綺麗にするというような内容ではなくて広げていくような内容なので、その方がいいと思う。

**事務局** 内容の詳細については、今後パブリックコメントもあるので、最終的な決定は市に任せてもらえればと思う。

**委員長** (答申案についての採決 ⇒ 全員賛成)

**委員** 前回の委員会でも話に上がった「楽」の文字は必要あるのか。内容が細かく決まった現状で、計画策定の途中に思いをまとめるために示した「楽」はもう不要ではないか。

**事務局** 23ページに、計画検討中に使用していた「楽しい」「楽しむ」「楽しませる」を表現した「楽」に関しての概念図を再度掲載している。

これについては、委員からもう少し「楽」のイメージを膨らませたらどうかという意見も出ている中で、当初の作成者に当時の考えや経緯をお聞きして、どのように書けば趣旨を壊さないかなどを相談した。その中で様々な意味を持つ「楽」というテーマは、当初の計画を策定する際に、皆の考えを一つにまとめていく上で、非常に大きな意味合いを持つものだということをお聞きした。

**委員** 話を進める経過としてはいいが、最終的な計画の表紙に使う必要はないのでは。具体的には23ページにテーマとして掲載するのはいいが、表紙にはどうしても不要に感じてしまう。ある意味二面性の片方の部分にだけスポットライトが当たりすぎているような印象を持つ。

**委員** 再生計画の策定に関わったが、1ページ1番の目的の部分に「中心市街地の活性化のため、衰退の著しい権堂地区に賑わいを取り戻し、まちの再生に向けた具体策を官民協働で見出し、具現化を目指します」とある。これを一文字で表す文字として「楽」の反対の「苦」という候補もあったが、イメージを良くして明るい雰囲気にするために、最終的に「楽」というテーマに決定した。

**委員** 真剣に議論する為のテーマとしては良いが、「楽」という文字が大きく入った表紙をぱっと見ると、違和感を持つ人がいると思う。

**委員** 「楽」という言葉は元々深い意味がある言葉なので、私はここに使ってもいいのではないかと思う。

**委員** 計画の中のテーマについての部分に載せるのはいいと思うが、表紙に大きく載せることは、計画を作成してきた人たち以外にはピンと来ないのではないかな。

**委員** 権堂再生計画の中身を最後まで読み進めていくと、23ページで表紙の「楽」の意味と繋がるのではないかな。

**委員** そもそも繋がる必要がないと思う。何か「再生」らしく表紙を飾れるようなものはないだろうか。役所に出すような書類では、見栄えこそ良いと思うが、一般の人たちに響かないと思う。

どちらかという「楽」より「苦」の方が強い地区だと思うし、表紙の「楽」一言で中身を表せてもいないと思うので、何か他に品格の感じられるものをお願いしたい。

**事務局** では先程の中心市街地活性化プランの表紙と合わせて、計画の中身とリンクしたような表紙を検討させていただきたい。

#### (4) その他意見等

**委員** 権堂地区再生計画の9ページに「あらたな日常をちりばめる」とあるが、その中の「子どもたちの頼れる場所」というのはどういう場所を指しているのか確認したい。

**事務局** 計画の9～10ページは、ワークショップに参加している権堂近隣の女性の方々からいただいた意見になっている。鍋屋田小の校区に住んでいるその方は、幼い頃から、学校が終わったらお店に寄るようなことはせず、真っ直ぐ家に帰って来なさいと言われてきた。それはやはり、色々な人が住んでいる地区で、子どもの判断では危ないことがあるかもしれないという理由からで、現在その方が小さい子どもをもつ母親と言う立場になり、何かあったとき、いざというときに子どもが駆け込める場所が欲しいと思ったそうだ。困ったときにはあの場所へ行くといいよ、と子どもに言える場所がほしいという意見を端的に表現したところ、多少分かりづらい表現になってしまった。

**委員** 権堂地区には他の地域にあるような、子どもを守る家を表す看板はないのかな。

**委員** 権堂地区には無い。保健センターも安茂里、児童館も居町まで行かないと無く、中心市街地にはそのような施設が全く無い。交番もイーストプラザに移設してアーケードには無くなってしまい、子ども連れのお母さんが歩ける場所がほとんど無い。

**委員** 権堂地区再生計画の10ページに「らしさを磨く」とあり、その中の憩い・潤いスポットの例として気軽に立ち寄れるお店とあったり、他にも入店しやすいとか、気楽に寄れるお店という言葉が出てくる。本来お店というのは気軽に入れるものだと思うが、権堂には入りづらいお店がたくさんあるということなのか。

**事務局** 多くの方から、お金を使わなくても入れるお店が必要ではないかという意見をもらった。他にもベンチ、広場、緑、水辺等とあるが、そうしたお金が発生しない部分に人が集まってくると、その人たちをターゲットに新たな商売が始まるだろう、という話まで出た。

気軽に立ち寄れる店、の具体例としては、権堂アーケードの中ほどにある古本・雑貨屋さんをイメージしている。

**委員** それは分かるが、憩い・潤いスポットの例にベンチ、広場、緑、水辺等と並べて「気軽に立ち寄れる店」を記載するのは少し違和感があるがどうか。

**事務局** これを記載した経過は、まずはワークショップで出された意見を6つの方策ごとに分類したものが9～10ページ、更に11の提案事業ごとに分類し直したものが11ページの表

になる。事業アイデアが全て提案事業に入っている、というものではない。

**委員** 11ページの表では「立ち止まれる店」とあり、10ページの「立ち寄れる店」と表記が違うが意図したものなのか。

**事務局** 10ページの事業アイデアの部分には出されたとおりの意見を記載してある。11ページの提案事業としてまとめる際には、複数の意見を合わせたり、様々な要素を含み持たせていく上で表現が変わった経過はある。

**委員** 文字の並び方として、ベンチ、広場、気軽に立ち寄れる店、緑、水辺等という順番は多少気になる。

**委員** スポットとして考えると、「店」という表現より「場所」とかの方がいいのではないか。

**委員長** 表現について事務局で検討するという事でお願いしたい。

## 7 答申

### (1) 第二期長野市中心市街地活性化基本計画の実績に係る評価及び計画の変更について

**委員長** 第二期中心市街地活性化基本計画の期間満了を受け、今後とも将来的な国の認定を念頭に置きつつ、長野市独自の中心市街地活性化プランを策定することで、引き続き中心市街地の活性化に積極的に取り組まれない。

### (2) 長野市権堂地区再生計画の実績に係る評価及び計画の変更について

**委員長** 権堂地区の歴史や文化、立地等を活かし、権堂まちづくり協議会が中心となった現行計画の取り組みには、一定の意義や効果があった。今後は、実績に係る評価をふまえ、テーマや目標等、現行計画の根幹を継続した「長野市権堂地区再生計画改定案」をもとに、権堂らしさを残しつつ、潤いある景観や空間、豊かな居住環境と歩行環境を備え、魅力ある商店街が融合した「まち並み」へ再生するべく、地元権利者とも連携した活性化に取り組まれない。なお、広範囲への影響が見込まれる大規模商業施設や、これに付随する道路、住居の整備については、実情に則して実現可能性を備えた事業計画とするとともに、合理性のある整備手法の選択に留意されたい。

## 8 連絡事項

- ・両計画の内容について本日いただいた意見は、9月のパブリックコメントまでに反映する。
- ・表紙についてはパブリックコメント後に修正する。

## 9 閉会